

# 麗澤大学での教育・研究活動を振り返って

高 巖

人生には節目があり、誰もがその節目に立った時、改めて過去を振り返り、「自分はいったい何ができたのか」と考えるものです。ただ、通常は、頭の中で思いを巡らせるだけであって、文字にすることはないかと思えます。今回、幸いなことに「退職にあたり、これまでの教育・研究活動を振り返ってまとめるように」との有り難い執筆依頼を頂戴しましたので、ここに思いを認めさせていただきます。

まず教育についてですが、これはやり甲斐あるチャレンジの連続だったと思っています。学生達がどう思ったかは知りませんが、私自身、「学生の立場で」を信条に教壇に立てきたと自負しております。分かりにくい理論、仕組み、概念などがあれば、できるだけ分かりやすく説明するよう、準備もしてきました。そうした工夫の積み重ねが「建学の理念」に沿うものと考え、実践してきたつもりです。

ただ、今、振り返って考えてみれば、「学生の立場で」という気持ち（独りよがりの気持ちだったかもしれない）を持ち続けることができたのは、「建学の理念」以前に、たくさんの前向きな学生達との出会いがあったからだ、改めて感じています。特にゼミやビジネスエシックスなどのクラスは、私にとって本当に貴重な場となりました。幸いなことに、2000年を境として、私は、政府関係の仕事、国際規格関係の仕事、企業関係の仕事に、深く関わっていくことになりましたが、いずれの場合も、「学外での様々な経験を学生達と共有したい、麗澤大学に誇りを感じてもらいたい、大きく動く外の世界を感じてもらいたい」との思いからでした。

研究に関しても、素晴らしい方々との出会いがありました。全ての始まりは、永安幸正先生との出会

いからでした。研究に臨む先生の姿勢は、知らず知らずのうちに、私の意識と行動を変えていったと思っています。経営学を専門としながらも、とにかく大きなテーマにチャレンジすること、その意義を身をもって教えてくださったのは永安先生でした。

先生を通じて、難波田春夫先生にも学ぶことができました。難波田理論を学べば学ぶほど、経済学、政治学、社会学、倫理学、哲学などに対する知的好奇心が膨らんでいったことを、昨日のようにはっきりと覚えています。永安先生に勧められてチャレンジしたのが、1975年にチューリング賞を、そして1978年にノーベル経済学賞を受賞したハーバード・A・サイモン博士の理論を新たな視点で、まとめることでした。これには、15年以上の歳月を費やすことになりましたが、結果として、その時間が後の私の研究とキャリアを決定づけたと思っています。

サイモンによる古典派・新古典派経済学に対する批判、利他主義モデルの提唱などは、ビジネスエシックスに対する興味を大きく膨らませてくれました。難解だったのは、彼の人工知能に関する理論とシミュレーションでした。現在は、第3次AIブームと呼ばれ、日本でも（ネットを通じてでも）、様々な文献や論文が入手できますが、当時は手頃な和書もなく、結局、900ページに及ぶ **Human Problem Solving** という原書を、行きつ戻りつで格闘しながら読み進めるしかありませんでした。当然、博士には、私の理解が正しいのか、誤っているのか、しつこく質問させてもらいました。これが私の博士論文となった訳ですが、その出版にあたっては、有難いことに、サイモン博士より、直接、巻頭の辞を頂く

という榮譽に預かりました。今でも、博士との出会いを誇らしく思っています。

ビジネスエシックスの分野で研究を深めるきっかけを与えてくれたのは、トーマス・ダンフィー教授、トーマス・ドナルドソン教授でした。特にダンフィー教授に指導を受けた2年半、本当に充実した日々を送ることができました。教授らの「統合社会契約論」は、後にビジネスエシックス研究の一里塚となりますが、その理論が構想され、精緻化される過程を、側で学ぶことができたのは、渡米生活での大きな成果だったと思っています。

麗澤大学での最後の本格的な研究は、寺本先生、田中先生、藤野先生、大塚先生、藤原先生の協力を得て上梓した『日本航空の破綻と再生』でした。これは、8年に及ぶプロジェクトとなりましたが、その構想から具体化に至るプロセスは、ある意味、ダ

ンフィー教授らの協働研究に倣うものでもありました。私自身は「充実した研究だった」と感じていますが、研究の過程や執筆の局面で5人の先生方には無理を申し上げることもあったかと反省しています。ただ、各自がそれぞれの分野で立ちし、活躍されることを願っての協力要請であったことは忘れないうで頂ければ幸いです。恩師の永安先生ほどではありませんが、次の世代に「独立した研究者としての姿勢」が繋がっていけば、この上ない喜びです。

最後になりましたが、40年以上、麗澤のキャンパスで過ごせたこと、学部の運営やカリキュラム編成に関し、佐藤政則先生をはじめとする多くの先生方から助言や支援を頂いたこと、学生第一をモットーに行動しておられた職員の皆さんと苦楽を共にしたこと、全てが私の宝となっています。心からの感謝を申し上げ、退職の言葉とさせていただきます。



高 巖 (Iwao Taka) 博士 略歴

1956 年生まれ

#### 学歴

1979 年 3 月 麗澤大学外国語学部イギリス語学科卒業

1981 年 3 月 早稲田大学大学院商学研究科 修士課程  
修了 商学修士号取得

1985 年 3 月 早稲田大学大学院商学研究科 博士課程  
修了

1995 年 3 月 早稲田大学より商学博士号取得

#### 主な職歴

1980 年 4 月～1991 年 3 月 財団法人モラロジー研究  
所研究部経済研究室 研究員

1991 年 9 月～1994 年 3 月 米ウォートン・スクール  
フィッシャー・スミス客員研究員

1994 年 4 月～1996 年 3 月 麗澤大学国際経済学部 専  
任講師

1995 年 4 月～2004 年 3 月 早稲田大学商学部非常勤  
講師

1996 年 4 月～2001 年 3 月 麗澤大学国際経済学部 助  
教授

2001 年 4 月～2008 年 3 月 麗澤大学国際経済学部 教  
授

2002 年 4 月～2003 年 3 月 立教大学大学院ビジネス  
デザイン研究科非常勤講師

2002 年 4 月～2012 年 3 月 麗澤大学大学院国際経済  
研究科 教授

2003 年 4 月～2006 年 3 月 九州大学ビジネススク  
ール 講師

2004 年 4 月～2007 年 3 月 早稲田大学大学院ファイ  
ナンス研究科 兼任講師

2007 年 4 月～2014 年 3 月 京都大学経営管理大学院  
客員教授 (京セラ経営哲学寄附講座)

2008 年 4 月～2022 年 3 月 麗澤大学経済学部 教授

2012 年 4 月～2022 年 3 月 麗澤大学大学院経済研究  
科 教授

2016 年 6 月～ 鹿児島大学稲盛アカデミー 客員教授

2022 年 4 月～ 明治大学経営学部 特任教授

#### 主な学内役職

2003 年 4 月～2009 年 3 月 麗澤大学企業倫理研究セ  
ンター長

2009 年 4 月～2013 年 3 月 麗澤大学経済学部学部長

2017 年 4 月～2020 年 3 月 麗澤大学企業倫理研究セ  
ンター長

## 主な受賞等

- 1996年6月 組織学会より『H. A. サイモン研究：認知科学的意味決定理論の構築』に対し高宮賞を受賞
- 2008年9月 全米企業倫理コンプライアンス協会（SCCE）より国際企業倫理コンプライアンス賞（International Compliance and Ethics Award）受賞
- 2017年5月 内閣総理大臣より消費者支援功労者「内閣総理大臣表彰」受賞
- 2020年3月 公益財団法人交通協力会より『日本航空の破綻と再生』に対し「第45回交通図書賞（経済・経営部門）」受賞

## 主なその他活動

- 2000年10月～2008年7月 企業倫理世界会議（ISBEE）理事
- 2002年9月～2004年7月 日本ハム株式会社 企業倫理委員会 委員長
- 2003年1月～2004年6月 ISO/SR世界高等諮問会議 委員（国際標準化機構）
- 2003年7月～2004年4月 多様な主体による地域づくり戦略研究会 委員長（国土交通省）
- 2004年3月～2005年2月 営業秘密管理指針及び技術流出防止指針の標準化検討委員会 委員長（日本規格協会・経済産業省）
- 2004年10月～2011年2月 ISO・SR国内対応委員会 委員（日本規格協会・経済産業省）
- 2005年4月～2008年3月（株）サーティファイ ビジネスコンプライアンス検定 委員長
- 2005年7月～2005年12月 三菱地所株式会社コンプライアンス特別委員会 委員長
- 2006年6月～2007年5月 ヤマハ発動機株式会社 コンプライアンス推進特別委員会 委員長
- 2006年7月～2007年6月（株）菱和ライフクリエイト 第三者コンプライアンス委員会 委員長
- 2006年12月～07年1月 株式会社日興コーディアルグループ特別調査委員会 委員
- 2008年9月～2009年3月（財）企業活力研究所CSR委員会 座長
- 2009年10月～11月 JR西日本コンプライアンス特別委員会 委員長

- 2010年6月～2019年6月 日本ハム株式会社 社外取締役
- 2014年7月～2015年3月 安全衛生に関する優良企業評価・公表制度に関する検討会 座長（厚生労働省）
- 2015年6月～2016年6月 三菱地所株式会社 社外監査役
- 2016年6月～現在 三菱地所株式会社 社外取締役
- 2017年6月～2020年6月 株式会社商工組合中央金庫 社外取締役
- 2017年9月～2019年8月 内閣府消費者委員会 委員長
- 2020年6月～現在 第一生命保険株式会社 社外監査役
- 2020年10月～2021年3月 公益通報者保護法に基づく指針等に関する検討会 座長（消費者庁）

## 書籍

- 高巖・藤原達也・藤野真也・大塚祐一（2019）『日本航空の破綻と再生』ミネルヴァ書房。
- 高巖（2017）『コンプライアンスの知識（第3版）』日本経済新聞出版社。
- 麗澤大学企業倫理研究センター監修、中野千秋・高巖編（2016）『企業倫理と社会の持続可能性』麗澤大学出版会。
- 高巖（2015）『女子高生と学ぶ稲盛哲学—豊かな社会と人生の方程式』日経BP。
- 高巖（2013）『ビジネスエッセックス[企業倫理]』日本経済新聞出版社。
- 高巖（2010）『コンプライアンスの知識（第2版）』日本経済新聞出版社。
- 清水千弘・高巖編（2009）『企業不動産戦略—金融危機と株主市場主義を超えて』麗澤大学出版会。
- 高巖（2006）『なぜ企業は誠実でなければならないのか』モラロジー研究所。
- 高巖（2006）『「誠実さ」を貫く経営』日本経済新聞出版社。
- 高巖・日経CSRプロジェクト編（2004）『CSR 企業価値をどう高めるか』日本経済新聞出版社。
- 高巖（2003）『コンプライアンスの知識』日本経済新聞出版社。

- 高巖・T. ドナルドソン (2003) 『ビジネス・エシックス—企業の社会的責任と倫理法令遵守マネジメントシステム』 文眞堂.
- 高巖・辻義信・S.T. デイヴィス・瀬尾隆史・久保田政一 (2003) 『企業の社会的責任—求められる新たな経営観』 日本規格協会.
- 高巖・稲津耕・國廣正 (2001) 『よくわかるコンプライアンス経営』 日本実業出版社.
- 高巖編・出見世信之・森哲郎・猿丸敦子 (2001) 『ECS2000 このように倫理法令遵守マネジメント・システムを構築する—コンプライアンス・企業倫理の実践が機能する仕組み』 日科技連出版社.
- 麗澤大学経済研究センター「企業倫理研究プロジェクト」(2000) 『倫理法令遵守マネジメント・システム—ECS2000v1.2 の導入と活用法』 麗澤大学出版会.
- 高巖 (2000) 『企業倫理のすすめ—ECS2000 と倫理法令遵守の仕組み』 麗澤大学出版会.
- 高巖・國廣正 (1999) 『金融機関のコンプライアンス・プログラム—ECS2000 を活用した金融検査への対応』 経済法令研究会.
- 高巖・T. ドナルドソン (1999) 『ビジネス・エシックス—企業の市場競争力と倫理法令遵守マネジメント・システム』 文眞堂.
- R. A. モース・高巖 (1998) 『自力再生への選択—日本の政治・経済・企業倫理を救う道』 麗澤大学出版会.
- 高巖 (1995) 『H・A・サイモン研究—認知科学的意思決定理論の構築』 文眞堂.
- 論文**
- 高巖・田中敬幸 (2013) 「多国籍企業のビジネスエシックス：人権問題と紛争鉱物を巡って」日本経営倫理学会監修、小林俊治・高橋浩夫編『グローバル企業の経営倫理・CSR』 (pp.15-29) 白桃書房.
- 高巖・國廣正・五味祐子 (2012) 「グローバル・リスクとしての海外腐敗行為：ナイジェリア贈賄事件を巡って」『麗澤経済研究』 20 (2), 1-24.
- 高巖 (2012) 「いかに ISO26000 を個別組織に導入するか」『麗澤大学・ISO26000 管理一覧』を巡って『麗澤経済研究』 20 (1), 1-75.
- 高巖 (2012) 「経営倫理教育の課題と展望」『日本経営倫理学会誌』 19, 5-6.
- Taka, I. (2010). Fairness in international trade and business ethics: A Japanese perspective. In Moore, G. (Eds.), *Fairness in International Trade* (pp. 139-166). Dordrecht: Springer.
- Taka, I. (2010). Overcoming the problems inherent in Cap & Trade Programs: Proposals for a new emissions trading system based on the experience of the Reitaku University model. *Reitaku International Journal of Economic Studies*, 18 (1), 1-7.
- 高巖 (2010) 「新たな排出量取引制度の提唱—キャップ&トレードの限界を回避する仕組み」『麗澤経済研究』 18 (1), 35-40.
- 高巖 (2010) 「経営理念はパフォーマンスに影響を及ぼすか—経営理念の浸透に関する調査結果をもとに」『麗澤経済研究』 18 (1), 57-66.
- 高巖・小野宏哉・倍和博 (2009) 「産業界の視点から「排出権取引制度」を構想する—Non-Cap Approach の提唱」『麗澤経済研究』 17 (2), 1-18.
- Taka, I. (2009). Le Japon et les objectifs du millnaire pour le dveloppement: La Confrence Internationale de Tokyo sur le Dveloppement en Afrique (TICAD). *Ethique et Societe*, 5 (3), 325-334.
- 高巖 (2009) 「プロフェッショナルとしての義務と責任—不動産証券化ビジネスのあり方を巡って」清水千弘・高巖編『企業不動産戦略—金融危機と株主市場主義を超えて』 (pp.228-253) 麗澤大学出版会.
- 高巖 (2009) 「金融危機と株主市場主義を超えて」京都大学京セラ経営哲学寄附講座編『経営哲学を展開する—株主市場主義を超えて』 (pp.179-194) 文眞堂.
- 高巖 (2009) 「経営哲学とは何か：7つの定義」京都大学京セラ経営哲学寄附講座編『経営哲学を展開する—株主市場主義を超えて』 (pp.21-57) 文眞堂.
- 高巖 (2008) 「CSR と企業倫理」大久保和孝・高巖他『会社員のためのCSR入門』 (pp.30-53) 第一法規出版.
- 高巖 (2008) 「生活者がつくる持続可能な社会—消費者団体訴訟制度を活かす」久米郁男編『生活者がつくる市場社会』 (pp.155-184) 東信堂.
- 高巖 (2004) 「CSR と日本企業の課題」日本規格協会編『CSR 企業の社会的責任—事例による企業活動最前線』 (pp.15-50) 日本規格協会.
- 高巖 (2000) 「H・A・サイモンの組織論と利他主義モデルを巡って—企業倫理と社会選択メカニズムに関

- する提言」経営学史学会編『経営学百年—鳥瞰と未来展望』（pp. 197-206）文眞堂。
- 高巖・大山泰一郎（2000）「企業の市場競争力と倫理法令遵守マネジメント・システム：ECS2000 プロジェクトの狙いと課題」『日本経営倫理学会誌』7, 113-120.
- 高巖（2000）「企業倫理と ECS2000—倫理法令遵守マネジメント・システムの構築」『組織科学』33（3），40-51.
- 山田敏之・高巖（2000）「企業倫理に関する未来からの提言—21 世紀の企業と社会に関する学生の意識調査を踏まえて」『麗澤学際ジャーナル』8（1），15-31.
- 麗澤大学経済研究センター「企業倫理研究プロジェクト」（1999）「「倫理法令遵守マネジメント・システム規格」（ECS2000）を発行するにあたって」『麗澤経済研究』7（2），1-27.
- 小林義彦・高巖（1999）「企業倫理の現状と社会制度の再検討：企業倫理の実践調査および意識調査の結果を踏まえて」『日本経営倫理学会誌』6, 123-130.
- 小林義彦・高巖（1999）「企業倫理の現状と社会制度の再検討：企業倫理の実践調査および意識調査の結果を踏まえて」『日本経営倫理学会誌』6, 123-130.
- 山田敏之・福永晶彦・野村千佳子・高巖・梅津光弘・中野千秋（1999）「21 世紀の企業と社会に関する学生の意識調査：倫理基準適用の実態と属性間分析」『日本経営倫理学会誌』6, 109-121.
- 高巖（1998）「日本におけるビジネス・エシックスの制度化—主要日本企業の倫理制度化調査の結果を踏まえて」『産業経営』25, 19-51.
- Taka, I. (1998). "Contextualism" in business and ethical issues in Japan. In Kumar, B. N., & Steinmann, H. (Eds.), *Ethics in International Management* (pp. 323-339). Berlin: De Gruyter.
- T. ドナルドソン・高巖（1997）「企業の影響力と倫理的課題」『モラロジー研究』44, 31-57.
- 高巖（1997）「企業の歴史的進化—健全な企業倫理とコーポレート・ガバナンスを求めて」『モラロジー研究』44, 1-30.
- 高巖・T. ドナルドソン（1997）「多国籍企業とビジネス・エシックス」『麗澤学際ジャーナル』5（2），17-34.
- Taka, I. (1997). Business ethics in Japan. *Journal of Business Ethics*, 16(14), 1499-1508.
- Taka, I., & Dunfee, W. T. (1997). Japanese moralogy as business ethics. *Journal of Business Ethics*, 16（5）, 507-519.
- Taka, I., & Dunfee, W. T. (1997). The house of Nomura and the Japanese securities scandals. In Sethi, S. P., & Steidlmeier, P. (Eds.), *Up Against the Corporate Wall: Cases in Business and Society, 6th edition* (pp. 173-186), Hoboken: Prentice-Hall.
- 高巖（1997）「企業の新しい社会的責任：社会契約による倫理的公正の実現を目指して」『日本経営倫理学会誌』4, 11-19.
- 高巖（1996）「企業と社会の契約」『産業経営』22, 115-147.
- 高巖（1996）「文化論アプローチ—日本型ビジネス社会の文化的特質と倫理的課題」工藤秀幸・小林末男・島田達巳・根本孝編『現代の経営管理』（pp. 25-51）創成社。
- 高巖（1996）「道徳性と経済—金解禁と緊縮政策に関する廣池千九郎の見解」『モラロジー研究』42, 79-113.
- T. ドナルドソン・高巖（1996）「道徳的主体としての企業」『麗澤学際ジャーナル』4（1），23-45.
- 高巖（1996）「企業における倫理と効率—H.A. サイモンの利他主義モデルを越えて」『組織科学』30（2），50-58.
- 高巖（1996）「統合社会契約論とビジネス・エシックス—透明性テストの可能性を求めて」『組織科学』29（3），69-78.
- 高巖（1996）「統合社会契約論の新展開：日本の経営の抱える倫理的課題の解決を目指して」『日本経営倫理学会誌』3, 3-15.
- Laufer, W. S., & Taka, I. (1995). Japan, regulatory compliance, and the wisdom of extraterritorial social controls. *Hastings International and Comparative Law Review*, 18(3), 487-530.
- Taka, I. (1994). Organizational growth and entrepreneurial belief system: The case of Kyocera Corporation. *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*, 2(2), 53-84.
- Taka, I., & Foglia, W. D. (1994). Ethical aspects of 'Japanese leadership style.' *Journal of Business Ethics*, 13(2), 135-148.
- Taka, I. (1994). Business ethics: A Japanese view. *Business Ethics Quarterly*, 4(1), 53-78.

高巖 (1990) 「歴史と思想:『二宮尊徳の人間学的研究』に学ぶ」『モラロジー研究』29, 105-124.

高巖 (1990) 「熟達者の直観とコンピュータ・シミュレーション—H.A. サイモンの理論を中心として」『社会科学討究』35 (3), 717-750.

高巖 (1988) 「問題解決としての科学的発見—H.A. サイモンを中心として—下」『麗澤大学紀要』46, 77-107.

高巖 (1987) 「問題解決としての科学的発見—H.A. サイモンを中心として—上」『麗澤大学紀要』45, 85-109.

高巖 (1989) 「経済学から認知科学へ—2—1950年代～60年代の H. A. サイモン理論」『麗澤大学紀要』48, 135-187.

高巖 (1988) 「経済学から認知科学へ—1—1950年代～60年代の H. A. サイモン理論」『麗澤大学紀要』47, 185-222.

高巖 (1988) 「日米関係と広池千九郎の思想:日本の国際化と戦前の移民問題」『モラロジー研究』25, 217-241.

高巖 (1986) 「世界システム論の新展開:現代政治経済と広池千九郎の平和思想」『モラロジー研究』21, 81-112.

高巖・永安幸正 (1986) 「戦後日本の企業家精神—日本の産業発展と企業家のイノベーション—下」『麗澤大学紀要』43, 205-233.

高巖・永安幸正 (1986) 「戦後日本の企業家精神—日本の産業発展と企業家のイノベーション—上」『麗澤大学紀要』42, 185-213.

高巖 (1985) 「組織のデモグラフィ分析: Pfeffer 理論を中心として」『商経論集』48, 47-58.

高巖 (1984) 「新たな社会進化論の動向: システム論的アプローチを中心として」『モラロジー研究』16, 71-100.

高巖 (1983) 「ウェーバー組織理論の構造: 組織分析の原点を求めて」『モラロジー研究』14, 79-97.

高巖 (1983) 「組織変革における「構想力」のシステム論的解釈: 組織変動論の新たな展開を求めて」『商学研究科紀要』16, 61-72.

高巖 (1983) 「企業家の信念体系と組織の急成長: 京都セラミックの場合」『商経論集』44, 1-24.

高巖 (1982) 「「資源情報処理パラダイム」と「一般変動理論」に関する一考察」『商学研究科紀要』13, 121-134.

## 報告書

高巖 (2014) 「R-BEC0013: 外国公務員贈賄防止に係わる内部統制ガイドランス」麗澤大学企業倫理研究センター.

Taka, I. (2007). R-BEC006: An internal decision-making tool for the prevention of bribery of foreign public officials. Reitaku University: Business Ethics and Compliance Research Center.

高巖 (2006) 「R-BEC006: 外国公務員贈賄防止に関する企業内意思決定の支援ツール」麗澤大学企業倫理研究センター.

高巖 (2005) 「R-BEC0504: 大学教員向け「モデル倫理綱領」」麗澤大学企業倫理研究センター.

高巖 (2001) 「R-BEC001: 社会責任投資基準」麗澤大学企業倫理研究センター.

## その他

高巖 (2020) 「役員に求められるインテグリティ」有斐閣『ジュリスト』1552, 68-69.

高巖・藤野真也 (2016) 「エージェントをどう格付・評価・コントロールするか」中央経済社『ビジネス法務』16 (8), 33-37.

高巖 (2016) 「形式的な禁止から実質重視の判断へ: リスクに応じたアプローチ」中央経済社『ビジネス法務』16 (8), 12-17.

高巖 (2014) 「グローバル・リスクとしての海外腐敗行為: 企業はどう対処するか」日本規格協会『標準化と品質管理』67 (12), 2-18.

高巖 (2014) 「なぜ外国公務員贈賄防止に取り組む必要があるのか」経営倫理実践研究センター『経営倫理』76, 6-8.

高巖 (2013) 「公正な事業慣行と海外腐敗行為への対応」『R-BEC013』の構想と発行について」経営倫理実践研究センター『経営倫理』72, 17-19.

高巖 (2014) 「グローバル・リスクとしての反競争的行為」日本在外企業協会『グローバル経営』382, 6-9.

高巖 (2014) 「経済教室: 海外公務員への贈賄防止、経営トップ、指導力発揮を、詳細な社内規定必要」日本経済新聞朝刊 (p.15), 2014年4月30日.

- 高巖 (2011) 「日本監査役協会の理念に大きな期待を」  
日本監査役協会『月刊監査役』590, 21-23.
- 高巖 (2011) 「麗澤大学による ISO26000 の活用 (3)  
導入にあたっての留意点」日本規格協会『標準化と品質管理』64 (8), 49-53.
- 高巖 (2011) 「麗澤大学による ISO26000 の活用 (2)  
導入にあたっての留意点」日本規格協会『標準化と品質管理』64 (7), 39-43.
- 高巖 (2011) 「麗澤大学による ISO26000 の活用 (1)  
取組みの経緯と現状」日本規格協会『標準化と品質管理』64 (6), 55-59.
- 高巖・小野宏哉 (2009) 「経済教室: 温暖化防止誘因の  
あり方 (上)」日本経済新聞朝刊 (p.23), 2009 年  
8 月 13 日.
- 高巖 (2008) 「経済教室: 金融危機で問われる企業倫理」  
日本経済新聞朝刊 (p.29), 2008 年 11 月 21 日.
- 高巖 (2006) 「外国公務員贈賄防止に関する企業内意思  
決定の支援ツール R-BEC006 文書—特徴と取組み  
手順」日本在外企業協会『グローバル経営』297, 20-  
23.
- 高巖 (2004) 「いま、なぜ CSR なのか 企業には誠実  
さを追求し「良い行動をする責任」がある」JMAM 人  
材教育『人材教育』16 (11), 12-17.
- 高巖 (2004) 「経済教室: ISO、社会責任にも規格、産  
業界など参加を」日本経済新聞朝刊 (p.33), 2004 年  
7 月 2 日.
- 高巖 (2004) 「CSR と日本企業の課題 (2) 日本の進む  
べき方向」日本規格協会『標準化と品質管理』57 (7),  
71-80.
- 高巖 (2004) 「CSR と日本企業の課題 (1) 歴史に見る  
CSR の流れ」日本規格協会『標準化と品質管理』57  
(6), 62-72.
- 高巖 (2002) 「社会責任投資と金融機関の役割」経済法  
令研究会『銀行法務 21』46 (11), 16-21.
- 高巖 (2002) 「経済教室: 日本再生ファンド構築を、「社  
会責任」に投資」日本経済新聞朝刊 (p.27), 2002 年  
7 月 30 日.
- 高巖 (2002) 「「日本再生 SRI ファンド」を構想する  
—社会責任投資とビジネス社会の変革」フジタ未来  
経営研究所『季刊未来経営』5, 56-62.
- 高巖 (2002) 「欧米の社会責任投資と日本における新展  
開」第二地方銀行協会『リージョナルバンキング』52  
(2), 9-15.
- 高巖 (2001) 「組織の誠実さと市場における競争力」共  
済保険研究会『共済と保険』43 (5), 30-42.
- 高巖 (2001) 「新たな資金の流れが新しい日本を創る—  
特殊法人改革と社会責任投資の可能性」資本市場研  
究会『資本市場』194, 4-12.
- 高巖 (2001) 「経済教室: 企業倫理に日本型尺度を、経  
営の誠実さ評価」日本経済新聞朝刊 (p.25), 2001 年  
5 月 2 日.
- 高巖 (2000) 「リスク・マネジメントとしての企業倫理  
—ECS2000v1.2 と組織のインテグリティ」商事法務  
研究会『取締役の法務』77, 10-23.
- 高巖・三宅麻比子 (2000) 「経済教室: 倫理で企業選別  
の時代に」日本経済新聞朝刊 (p.25), 2000 年 5 月  
15 日.
- 高巖・S.T. デイヴィス (1999) 「企業倫理プログラム  
策定のためのポイント—倫理が信頼を生み、企業を  
強くする」産労総合研究所『賃金実務』36 (849),  
4-19.
- 高巖 (1999) 「倫理法令順守マネジメントシステムの構  
築—日米企業を比較して—日本企業は企業倫理への  
取り組み急げ」日本経済研究センター『日本経済研究  
センター会報』836, 23-26.
- 高巖・S.T. デイヴィス (1999) 「経済教室: 企業、倫  
理管理の体制急げ」日本経済新聞朝刊 (p.18), 1999  
年 6 月 28 日.
- 高巖・梅田徹 (1999) 「社会責任としての「倫理法令遵  
守マネジメント・システム」の構築」海外事業活動関  
連協議会『ステークホルダーズ』45, 29-33.
- 高巖 (1999) 「「日本からの提言と実践」—倫理法令遵  
守マネジメント・システム規格を構想する」産業能率  
大学総合研究所『総合研究所リサーチペーパー』99  
(1), 89-97.
- 高巖 (1998) 「企業倫理の新たな世界標準 SA8000 の  
すべて」ダイヤモンド社『週刊ダイヤモンド』86 (26),  
36-38.
- 高巖 (1997) 「IBM TI と日本企業の比較—収益あげる  
ことより倫理的な正しさを優先する米国企業」ダイア  
モンド社『週刊ダイヤモンド』85 (44), 99-101.